

2021年グローバル・グロース株式投資の見通し

先行き不透明な1年、 グローバルなグロース株が輝き続ける

“世界経済をめぐる先行き不透明感はいくすぶり続けており、今後数カ月間にわたり中央銀行の政策や経済対策が株式市場の安定を維持するカギになることは明らかです。しかし、経済活動がなお低迷する中、多くの投資家にとってグロース株が引き続き選好される可能性は高くなっています”

ジョン・レマート
フランクリン・株式グループ
シニア・バイス・プレジデント
シニア・ポートフォリオ・マネージャー

世界は2021年に向けてこれまでになく不透明感に覆われています。新型コロナウイルスの予測不可能性に加え、米国や多くの欧州諸国でウイルスの感染拡大を抑え込めずにいることから、ある程度正常とみられる状態に戻れる国と、人々の日常生活をコロナ禍前の状態に戻すためにもうじき行き届くと思われるワクチンが必要になる国の間で成長格差が広がる可能性があります。

こうした状況からすると、2021年はアジアの内需志向型企業に関心が移るのではないかと考えられ、我々はeコマースやクラウドサービス、住宅リフォーム、決済サービスなどの分野でグローバルに展開し、足元のコロナ禍でも潤ってきた企業が、地盤とする地域にかかわらず、今後も存在感を示すと予想しています。

平坦ではない正常化への回帰

世界的なパンデミックにより世界は急激な景気後退に陥りました。政府は2020年春に感染拡大を抑える狙いからロックダウンに踏み切り、経済活動は大きく停滞しました。政府や中央銀行による異例の政策支援にもかかわらず、世界銀行は世界の国内総生産(GDP)は2020年は5.2%縮小し、数十年ぶりの深刻な不況を記録すると予想しています¹。

来年は景気回復の年になるはずですが、その道筋は平坦ではありません。新型コロナウイルスの感染拡大をうまく抑え込んできた国はそうでない国より良好なパフォーマンスが見込まれます。オーストラリアや中国、日本など一部の主要国はウイルスの感染拡大をうまく抑え込んできましたが、米国や欧州で新型コロナウイルスの感染率が安定しなければ、世界景気の回復が軌道に乗るのは難しいとみえています。

さらに、感染率が安定したと人々が確信できるまで、冬の間はフランス、英国、ドイツなどによる行動制限の再導入により経済活動が一段と抑制される可能性があります。世界銀行では2021年の世界のGDPについて4.2%のプラス成長を予想していますが、今回のコロナ禍で失ったGDPを完全に取り戻す可能性は低く、世界の大半の地域で新型コロナウイルスの先行きが予測不可能なだけに、我々は先行き不透明感はいくすぶり続けており、今後数カ月間にわたり中央銀行の政策や経済対策が株式市場の安定を維持するカギになることは明らかです。しかし、経済活動がなお低迷する中、多くの投資家にとってグロース株が引き続き選好される可能性は高くなっています”

経済対策効果？

米国議会は喫緊の課題である経済対策を可決することで、国内経済の浮き沈みを抑えられる可能性があります。11月の選挙結果は米国の政治が分断されている状況を再び浮き彫りにしましたが、包括的な経済対策もまだ可能であるとみえています。ただし、民主党が圧勝した場合より経済対策の規模は小さくなる可能性があります。一方で、米連邦準備理事会(FRB)やその他の中央銀行による異例の金融政策が引き続き世界経済の主な下支えになると考えます。

とはいえ、米国のみならず、欧州でも息の長い景気回復を促すにはワクチンは不可欠といえます。少なくとも2種類のワクチン候補については後期段階の臨床試験(治験)の初期データとともに安全性と有効性の高さが示されています。他にも後期段階の臨床試験が進行中です。我々は2021年早々にワクチンの承認が始まると予想していますが、ワクチンが行き渡り、人々がソーシャルディスタンスを終わらせ始めるまでには1年近くを要する可能性が高くなっています。一部の治療薬の足元のデータはあまり芳しいものではなく、成長率をさらに押し上げるには有効なワクチンの投与を一段と迫られる可能性があります。

グローバルな潮流に乗った長期的な成長企業に注目

世界経済をめぐる先行き不透明感が多少なりともくすぶり続ける中、今後数カ月間にわたり中央銀行の政策や経済対策が株式市場の安定を維持するカギになることは明らかです。しかし、経済活動がなお低迷する中、多くの投資家にグロース株が引き続き選好される可能性は高くなっています。バリュー株市場への交代局面が間近に迫っている兆しは見られるものの、通常のバリュー株のベンチマーク指数ではエネルギー株や金融株の比重が高いことから、まずは原油価格の持続的な回復や金利上昇が必要と考えます。

我々はグローバルに事業を展開する革新的な成長企業が今後も足元の市場環境や経済環境で輝き続けるとみています。今回のパンデミックでeコマースの普及やクラウドコンピューティングなどの流れが加速しており、パンデミックが終わったとしてもこうした流れは長く続く予想しています。さらに、自動運転やクリーンテクノロジーなどの分野の企業も長期的に見て引き続き有望とみられます。

我々は、持続可能な競争優位と高い成長の可能性を持つ優良経営の企業に重点を置き、特化型でありながら分散投資効果が高いポートフォリオこそ、先行きが透明・不透明な時代を問わず、投資家に優れた運用成果をもたらさうとの見方を変えていません。

注釈

1. 出所: 世界銀行、世界経済見通し、2020年6月。いかなる予想、推測、予測も実現する保証はありません。
2. 同上

リスクについて

すべての投資には、元本の割り込みの可能性を含むリスクが伴います。株価は、個別企業、特定の産業、業種、市場環境全体などの影響により急速かつ大幅に変動する場合があります。外国証券への投資には為替変動、経済および政局の不透明感など特別なリスクを伴います。新興国市場の投資では、同じ要因に関連してのリスクが増大する一方で、市場規模や低流動性に関連したリスク等も伴います。

重要事項

当資料は一般的な情報提供のみを目的としたものであり、個別の投資助言または証券の売買、保有、または投資戦略の採用に関する推奨や勧誘を行うものではありません。また法律上、税務上の助言を行うものではありません。

当資料のなかで示された見解ならびにコメント、意見、分析は、当資料作成時点のものであり、事前通知なしに変更される可能性があります。当資料で提供された情報は、すべての国、地域、市場に関するすべての重大な事実に関する完全な分析を目的とするものではありません。

当資料の作成には、第三者を情報源とするデータが使用されている可能性があります。フランクリン・テンプルトン(「FT」)は当該データに関して独立した照合、検証、監査は行っていません。FTは、本情報の利用によって生じたいかなる損失に対しても一切、責任を負いません。当資料のコメント、意見、分析に対する依拠については、利用者ご自身でご判断ください。

金融商品、サービス、情報はすべての管轄区域で入手可能なわけではなく、米国以外では、他のFT関連会社および/または現地法および規則が承認するその販売会社によって提供されます。個別の管轄区域における金融商品およびサービスの提供に関する詳細な情報については、専門家の助言を受けることをお勧めします。

詳細につきましてはwww.franklinresources.comをご覧ください。

<当資料のお取扱いにおけるご注意>

- 当資料は、情報提供を目的として、フランクリン・テンプルトン(フランクリン・テンプルトン・リソース・インクとその傘下の関連会社を含みます。)の資料をもとに、フランクリン・テンプルトン・インベストメンツ株式会社が翻訳した資料であり、特定の金融商品取引の勧誘を目的とするものではありません。
- 投資信託は値動きのある有価証券(外貨建資産には為替リスクもあります。)に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、元本は保証されているものではありません。
- 投資信託は預貯金ではありません。したがって、元本は保証されておらず、投資した資産の減少を含むリスクがあることをご理解の上、お申込み下さい。
- 投資信託は預金等や保険契約と異なり、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、登録金融機関を通じてご購入頂いた場合は、投資者保護基金の保護の対象ではありません。
- 当資料は各種の信頼できると考えられる情報源を元に作成されていますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。
- 当資料中、記載されている内容・数値・図表・意見・予測等は、本資料作成時点のものであり、将来の市場動向、運用成果等を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。
- 当資料にかかわる著作権その他の一切の権利は引用部分を除き当社に帰属します。当資料の一部又は全部の無断での使用・複製は固くお断りします。

フランクリン・テンプルトン・インベストメンツ株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第391号

加入協会／ 一般社団法人投資信託協会

一般社団法人日本投資顧問業協会

一般社団法人第二種金融商品取引業協会

